

知って得する医師の話シリーズ71

大腸癌検診について



消化器内科部長 小園 雅哉

大腸癌検診の項目に便潜血を見かけることがあると思いますが、便潜血検査とは便の中に血液がまざっているかどうか調べる検査です。便の中の血液の存在を知ることで、大腸に病気が有るか無いかを探しています。それでは便潜血陽性だったら大腸癌があるかもとても心配される方がいると思いますが、陽性の大半は痔・炎症・憩室等が原因であり、陽性者の約2%に大腸癌があると言われています。

大腸を調べる方法の一つに大腸カメラがあります。大腸カメラは実際大腸の中を見て検査するためとても有用ですが、大腸をきれいにするために検査前に大量の下剤を飲んだり、カメラを肛門から入れて検査しますので、体に負担がかかります。反対に便潜血検査は便を採取するだけですので、大腸カメラを受けるよりも、検査が簡単で体に負担がかかりません。また、大腸カメラと比較して大腸ポリープの検出率が低いというデメリットがありますが、大腸癌の検出率はほぼ同じであることが言われています⁽¹⁾。

近年、女性の癌死亡率の1位が大腸癌となり、男女あわせた癌の罹患率も1位となり、大腸癌検診の重要性が高まっています⁽²⁾。本来なら40歳以上のすべての皆さんに大腸カメラを受けて頂きたいのですが、費用対効果の面から便潜血検査をまず勧めているところです。

大腸癌を早期に発見することができれば、生活の質を下げることなく治療することができます。大腸癌検診の対象の方はぜひ便潜血検査を受けることをお勧めします。

参考文献

- 1) Colonoscopy versus Fecal Immunochemical Testing in Colorectal-Cancer Screening. N Engl J Med. 2016 May 12; 374(19):1898
- 2) 人口動態統計（厚生労働省大臣官房統計情報部編）

がん緩和ケア研修会を開催しました



5月27日（土）、28日（日）当院大会議室で9回目のがん緩和ケア研修会を開催しました。

当研修会は、全てのがん患者さんに、全国どこでも均一で適切な緩和ケアを提供できることを目的として開催しています。本年度は、受講生として医師4名、看護師4名、理学療法士1名の方が参加されました。

また、講師は、県内の各地域において緩和ケアに携わる先生方をお呼びし、当院の看護師や事務職員も協力しました。

がんの痛みや呼吸困難等様々な身体症状の改善、患者・家族等とのコミュニケーション、地域連携による適切な治療・療養の場の提供などの講義とともに、小グループに分かれての事例検討、3人1組で交互に医師役・患者役・観察者役を体験するロールプレイなど熱心に取り組んでいただきました。



受講生からは、「様々な方向からの治療・緩和の方法を学ぶことができた。」「患者さんの気持ちの汲み取り方、コミュニケーションにスキルが必要なことを教えていただき勉強になった。」などの感想をいただきました。

研修会で得た、知識・技術を明日からの診療に活かしていただければと思います。

新規採用職員を紹介します



今年の4月から仲間入りした新規採用職員です。よろしくお願ひします。

【①名前②所属③出身地④この職業を目指したきっかけ⑤抱負（順不同）】



①徳山杏奈 ②1病棟 ③奄美市

④母親の働きぶりに憧れて、看護師になりたいと思いました。

⑤笑顔を忘れず、患者さんに安心感を与えられるよう頑張りたいです。

①高野鈴香 ②1病棟 ③奄美市

④幼い頃からの憧れでした。

⑤“笑顔”をモットーに頑張ります。よろしくお願ひします。

①針山加寿代 ②2病棟 ③南大隅町

④私は介護福祉士として福祉施設で約8年間勤務してきました。日常生活援助を通して、医療の基礎知識や技術を習得し、医療行為や利用者さんが急変した時に対応できる力を身に付けたいと思い、看護師を目指しました。

⑤加世田の地域は初めてですが、入院されてくる患者さんに安心安全な看護が提供できるように、日々勉強しながら頑張りたいと思います。よろしくお願ひします。

①阿部 瞳 ②3病棟 ③鹿児島市

④幼少期の入院の経験などから看護の職に憧れました。

⑤患者さんに寄り添った看護を提供していきたいです。

中学生による「職場体験学習」が行われました



当院では、毎年5月に、南さつま市内の中学生による「職場体験学習」が行われています。

今回は、加世田中学校3年の女子生徒2名と大笠中学校3年の女子生徒2名が5月15日から19日までの5日間、金峰中学校3年の男女生徒各1名と万世中学校3年の女子生徒1名が5月29日から6月2日までの5日間に渡って、理学療法士・作業療法士(リハビリ)、看護師、検査技師、薬剤師及び放射線技師(レントゲンなど)が働いて

いる部署を訪れ、担当者の説明を受けながら、仕事の様子や診療で使用している機器などを見学しました。

また、リハビリ機器の体験、ストレッチャーの移動、血液型を調べるための模擬検査の体験、薬局では、薬の効能や飲み方などの説明を受けた後、お菓子を使った模擬調剤を行うなど、「生きた社会体験」をしました。

生徒さん方には、職場体験を通して郷土を深く知り、未来を担う立派な社会人に成長していただけるように、当院は今後もそのお手伝いを続けていきたいと思ひます。



セクション紹介 (3病棟)

3病棟副師長 小宮 美由紀

3病棟は放射線科の原田医師、総合診療内科の田中医師を中心に、放射線科・内科・呼吸器内科(肺癌・結核)・がん緩和ケアの診療を行っています。そして看護ケアや日常生活については、看護師20名と看護補助者4名で業務にあたっています。

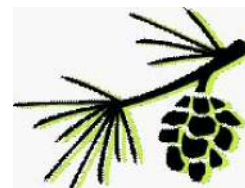
当病棟には、がん化学療法を受けている患者さん、終末期の患者さん、呼吸器疾患の患者さんなど様々な疾患の患者さんが入院しています。そして治療や入院生活に対し患者さんだけでなく、御家族の方も不安な気持ちを持っていらっしゃると思ひます。

私たち病棟スタッフは、緩和ケア認定看護師の鐘撞師長を中心に、患者さんやご家族の気持ちを大切に、それぞれの患者さんや御家族の気持ちに添った看護や、安心して入院生活を送ることができるように日々カンファレンスを行っています。カンファレンスには理学療法士・薬剤師・栄養士・地域連携スタッフなどの多職種が参加し、様々な視点から患者さんのサポートが出来るように心がけています。

私たちは、入院された患者さん、御家族に「3病棟に入院して良かった。」と思ひて頂けることを目標に、医師・看護師・多職種とチーム一丸となって頑張っていきたいと思ひています。

入院中、気になる事、不安な事がございましたら、お気軽に声をおかけ下さい。今後も3病棟をよろしくお願ひします。

「薩南病院 がん患者と家族の会」
松実会 ミニコンサート



5月11日(木)、正面玄関前のロビーで、ボランティアの方々によるミニコンサートが行われました。ハープやフルートの優しい音色に、入院患者さんや外来患者さん、職員等総勢30数名がうっとりとして聞き入って、癒やされる時間を皆で共有していました。

○当院の正面図・周辺地図



【所在地】 〒897-1123 鹿児島県南さつま市加世田高橋1968-4

【TEL】 0993-53-5300

【FAX】 0993-53-6764 (事務室)、53-5436 (地域医療連携室)

☆ 地域医療連携室 相談支援センター(外科外来横)では、患者さんやご家族からのご相談をお受けしております。どうぞお気軽にご利用下さい。

薩南病院の理念

県立薩南病院は、中核的病院として地域医療に貢献し、住民に信頼され、安心して医療を受けられる病院を目指します。

方針

- 1 職員は、常に「患者さんのための病院」であることを自覚し、安全に充分配慮して医療サービスを提供する。
- 2 職員は、常に研修・研究し、医療の質の向上に努める。
- 3 職員は、常に「和」をもって、より充実したチーム医療を実践する。
- 4 県立薩南病院は、常に他の医療・保健・福祉機関と連携し、効果的で最善の医療を提供する。